

俳句 大津俳句会

暁の寒月いまだ煌々と

井芹眞一郎

冬の月御伽話に馳せる夜

相原 朋子

白息を素手の両手に包み込む

一上日登美

産土の神鼓とどろく初御空

岡崎 浩子

着ぶくれてちよこんと母座れおり

香月のり子

初明り遠くに山の浮き立ちぬ

佐賀 久子

足音に雀飛びだす枯葎

佐澤 俊子

初便遠くの友の香りのせ

中嶋 清美

俳句 つのはな句会

凜と立つさざんか 街は華やいで

梅木トキエ

冬きゆうり育てし人の笑顔かな

塚本 洋子

冬うらら梯子欲しがる昼の月

榮田しのぶ

断捨離は生きる決意ぞ冬の蝶

村田 健二

松竹梅生けて卒寿の意気新た

志賀 孝子

坂道の多い町なり干し大根

田上 公代

青インクの文字をつたって寒に入る

上杉 波

探査機が兎にもらう鏡餅

矢嶋 道子

短歌 大津短歌会・野づかさ

指導 阿木津 英

病む夫とあるく道の辺咲き満つるカンナは
赤し一途に赤し

吉永 恵子

畑いちめんまる葉露草しげりたり刈りゆ
く音を猫も聞きつつ

坂本 臯子

TSMCの工場できて建物がつきつぎにた
つ波すすむごと

鞍 岳志

ウクライナの力士安青錦優勝す祖国の平和
を願えりわれは

山本 泰子

道端に吹き寄せられたるもみじの葉朝の日
さして輝き放つ

高村 貴子

石がきに取り残したる蔓くさの葉の紅と
なりて美し

吉田 良子

麻雀を打つ夢見たとて賽を振る退院七日目
八十八歳

本田 咲

さくさくと落ち葉踏みゆく木々のしたブナ
の黄色の葉を踏みてゆく

田中 玲子

時報の歌夕焼け小焼けを口遊み杖を頼り
の百歩の散歩

豊岡ミツル

少年のころに山より掘りて来し百合の花
咲く歳経て愛し

小平 善行